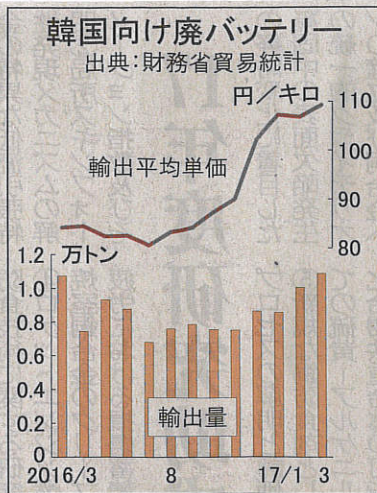


廃バッテリー

韓国向け最多1.1万トン

3月輸出、単価も最高値

財務省が27日発表した貿易統計速報による



鉛蓄電池)の韓国向け輸出量は前月比8・4%増の1万9011トと、2カ月連続の1万トを超えとなり過去最多を記録した。輸出平均単価は前月よりキロワット時で、過去最高値に達した。

鉛リサイクル原料となる廃バッテリーは、鉛二次精錬業の生産拡大が、過去最多だった前年同月の1万7300トを上回る数字。2カ

月連続の1万ト超えも初めてのことで、日本側の売り意欲と韓国側の買い意欲がともに旺盛だったことを示した。廃バッテリーの国内発生量の約3割を占めると推定される。なお、すでに発表されている韓国側の3月輸出統計では前月比7・8%減の9928トだった。

輸出平均単価109・3円は、2014年12月の107・5円を2年3カ月ぶりに上回り、過去最高値を更新した。廃バッテリーの輸出単価は鉛価格の前月平均が指標といわれているが、3月がその輸出採算価格のピークだったことが背景にあり、売り場が設けられた環境も加わって輸出に拍車が掛かったとも考えられる。

主な港別の輸出货量(単価)は、東京港3131ト(108・4円)、大阪港1525ト(108・4円)、門司港953ト(110・5円)、清水港898ト(109・1円)、広島港563ト(110・9円)。最大積み出し港

の東京港は2月、1港当たりの月間輸出货量としては過去最多の3228トを記録していたが、3月もそれに準じる最多水準だった。

廃バッテリーの市中取引相場は2-3月、キロ100円の大台に乗せた地域もあったが、今月は鉛建値がト30万円を割ったことや、輸出業者が販路開拓のため、国内の一次製錬・二次精錬メーカーに売り込みを図っていることから、100円弱まで小緩んでいる様子。